

平成 29 年度定時社員総会

総務委員会

(一社)東北地質調査業協会の平成29年度総会は、昨年度一般社団法人に移行したため名称を定時社員総会に改めて平成29年5月11日に仙台市宮城野区の「仙台ガーデンパレス」に於いて開催されました。会員総数49社の内、出席37社、委任状提出12社で過半数以上の出席が得られました。

総会は、平成28年度の事業報告と収支報告、役員改選の審議がなされ、引き続き平成29年度事業計画案と予算案、一般社団法人への移行についての報告が行われました。以下に概要を報告します。

1. 理事長挨拶

皆様こんにちは、理事長の高橋でございます。桜の季節も終わり、新緑が萌える、東北が一番美しいこの季節に、こうしてたくさんのお出席を頂いて総会を開催できることに感謝いたします。

今回は当協会が法人化して初めての定時総会となります。昨年のこの会で社団法人化の取り組みについてお話しさせて頂きましたが、昨年11月1日をもちましてはれて一般社団法人格を取得することができました。昭和34年に協会が設立されて以来、57年余りに渡り様々な活動を続けてきた当協会ですが、今回の法人化を機にさらに活発な、より必要とされる活動を行っていきたいと思います。

東北地方は6年前の東日本大震災で甚大な被害を受けました。まだまだ多くの方が避難生活や不安な生活を余儀なくされていますが、それでも復興に向けて確実に前進を感じることができます。一方で、昨年秋の台風10号上陸による岩手県北部での大災害や一昨年の豪雨による東北部および関東で堤防が決壊した大災害。また、全国に目を向ければ昨年4月の熊本大地震など、枚挙に暇がないほどの自然災害が毎年発生しております。それら自然災害に加えて、数年前に大きな話題になった横浜のマンションの支持杭の問題ですとか、昨年発生した福岡の地下鉄工事の道路陥没事故によって、ここ数年で地盤リスクというのが一般の人たちにも大きな注目を浴びてきております。

国交省では今年度から三者会議に地質技術者を参画させる取り組みをようやく始めました。我々地質技術者が設計段階から参画し、地盤に起因するリスクを早い段階で摘み取っていくことで、品質を確保していくことが目的になっています。地盤情報に精通した我々地質技術者が果たしていく役割はますます大きくなっていくと考えられ、現在進めている地盤情報のデータ化、共有化と併せて、担い手の確保・育成にしっかりと取り組んでいく必要があると感じています。その取り組みの一環ではありますが、当協会では、昨年度の大きな事業の一つとして、ボーリングマイスター制度を創設いたしました。ボーリング技術者として、多くの経験と優れた技術をもった人材を讃え、その経験と技術を未来へ伝承していこうという取り組みであります。今回、6名の方が東北の匠として認定されました。皆さん本当に素晴らしい技術をお持ちで、多くの困難な現場を経験なされてきたわけですが、皆さんに共通することは、決して諦めることなく、飽くなき向上心をもって取り組まれてきたところだと感じましたし、まさに職人、マイスターと呼ぶに相応しい技術を持った方々であります。全業種を通じて、働き手不足、担い手不足が叫ばれている中で、認知度の低い我々地質調査業が人材を確保していくのは、容易なことではありません。ましてや、政府が掲げる『働き方改革』によって、休日を増やし、残業を無くし、給料を上げて、職場の環境を快適にすると

.....

いった取り組みは一朝一夕にできるものではありません。完全週休二日制でさえ、実現にはもう少し時間が必要でしょう。この競争を勝ち抜いていくのは容易ではありません。

しかしながら、我々の持つ技術や知識・経験はこれまでも、そしてこれからも、この東北の安全・安心のために必要な物であり、決してなくしてはならないものであります。これからもこの業界が、そして会員企業が永続的に発展していくためにどうすればいいのか、何をすべきかを、皆さんと一緒に考えて活動していきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

2. 議事

議長：高橋理事長

議事録署名人：(株)日さく仙台支店 八楯 健 氏
(株)地質基礎 新田 邦弘 氏

第1号議案 平成28年度事業報告

会員に関する報告が事務局長からあった。

平成28年4月1日現在で49社。平成29年3月31日現在も同じく49社。

賛助会員については、平成28年4月1日現在で10社、平成29年3月31日現在も増減なしの10社。

役員及び委員会に関する報告では、平成28年度の通常総会以降役員会、総務委員会、技術委員会、広報委員会のメンバーに変更はないことが報告された。

引き続き事務局長より「各種事業に関する事項」の中で全地連に関する事項として、総会・理事会・事務局長会議・各種委員会・その他事項に関する報告があり、東北地質調査業協会に関する事項では各委員長からそれぞれの委員会に関して報告があった。

なお、平成28年度事業の特筆事項として、協会の任意団体から法人への移行と、優れたボーリング技能者を認定する匠制度の設立が報告された。

以上、第1号議案について、異議なく承認された。

第2号議案 平成28年度収支会計報告及び監査報告

平成28年度の収支決算について事務局長より報告があった。報告は法人化を受けて、これまでの収支報告書と、今後の報告様式に基づいた計算書について報告された。

引き続き鈴木益夫監事から、収支の諸資料を精査した結果、決算が適正かつ妥当に行われているとの監査報告があった。

以上、第2号議案について、異議なく承認された。

第3号議案 役員改選

本年度は2年毎の役員改選の年に当たることから、先だって理事会で承認された新役員の事務局案を総会に諮り承認された。役員の承認後、暫し総会を中断し新役員による臨時の会議を行って、新理事長、副理事長及び各委員長を選任し、総会を再開して事務局長より選任結果が報告された。

報告事項1 平成29年度事業計画(案)

平成29年度の事業計画(案)及び主たる行事予定について事務局長及び各委員長より説明があった。

平成29年度役員改選人事

役 職	新役員		
理事長		高橋 和幸	
副理事長		奥山 清春	
副理事長		太田 史朗	
青森県選出 理事	大泉開発(株)	坂本 興平	
岩手県選出 理事	旭ボーリング(株)	高橋 和幸	
宮城県選出 理事	川崎地質(株)北日本支社	太田 史朗	総務委員長
〃	基礎地盤コンサルタンツ(株)東北支社	仲井 勇夫	
〃	東北ボーリング(株)	熊谷 茂一	
〃	(株)ダイヤコンサルタント東北支社	秋山 純一	
〃	応用地質(株)東北支社	原田 益雄	
〃	土地地質(株)	橋本 岳社	広報委員長
〃	中央開発(株)東北支店	鈴木 益夫	
〃	(株)アサノ大成基礎エンジニアリング東北支社	寺田 正人	技術委員長
〃	(株)復建技術コンサルタント	遠藤 敏雄	
秋田県選出 理事	奥山ボーリング(株)	奥山 信吾	
山形県選出 理事	(株)新東京ジオ・システム	奥山 清春	
福島県選出 理事	新協地水(株)	佐藤 正基	
監事	(株)テクノ長谷	早坂 功	
監事	(株)サトー技建	加藤 一也	

報告事項2 平成29年度収支予算(案)

事務局長から、従前様式と今後の報告様式に基づいた計算書での平成29年度予算(案)について提案説明があった。

報告事項3 一般社団法人化の件

平成28年11月1日をもって法人に移行したことを報告し、総会資料の巻末に一般社団法人東北地質調査業協会の定款を示した。

また、公募を行って協会ロゴと匠ロゴを決定したことも報告した。

閉会 以上、審議が無事終了し、定時社員総会を閉会した。

その他

総会終了後、平成28年度制定の匠制度における初回認定者6名の表彰式が、総会会場にて行われました。その後懇親会場に席を移し高橋理事長挨拶の後、来賓の国土交通省東北地方整備局企画部長の渡邊泰也様より挨拶を頂き、新副理事長の太田理事の乾杯発声で宴会となりました。各テーブルでは近況を話しあうなど、会員相互の親睦を深め、大いに盛り上がりしました。最後に副理事長の奥山理事の締めでお開きとなりました。